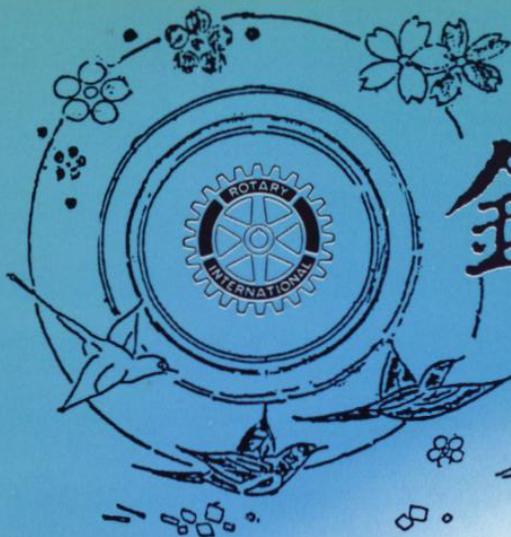
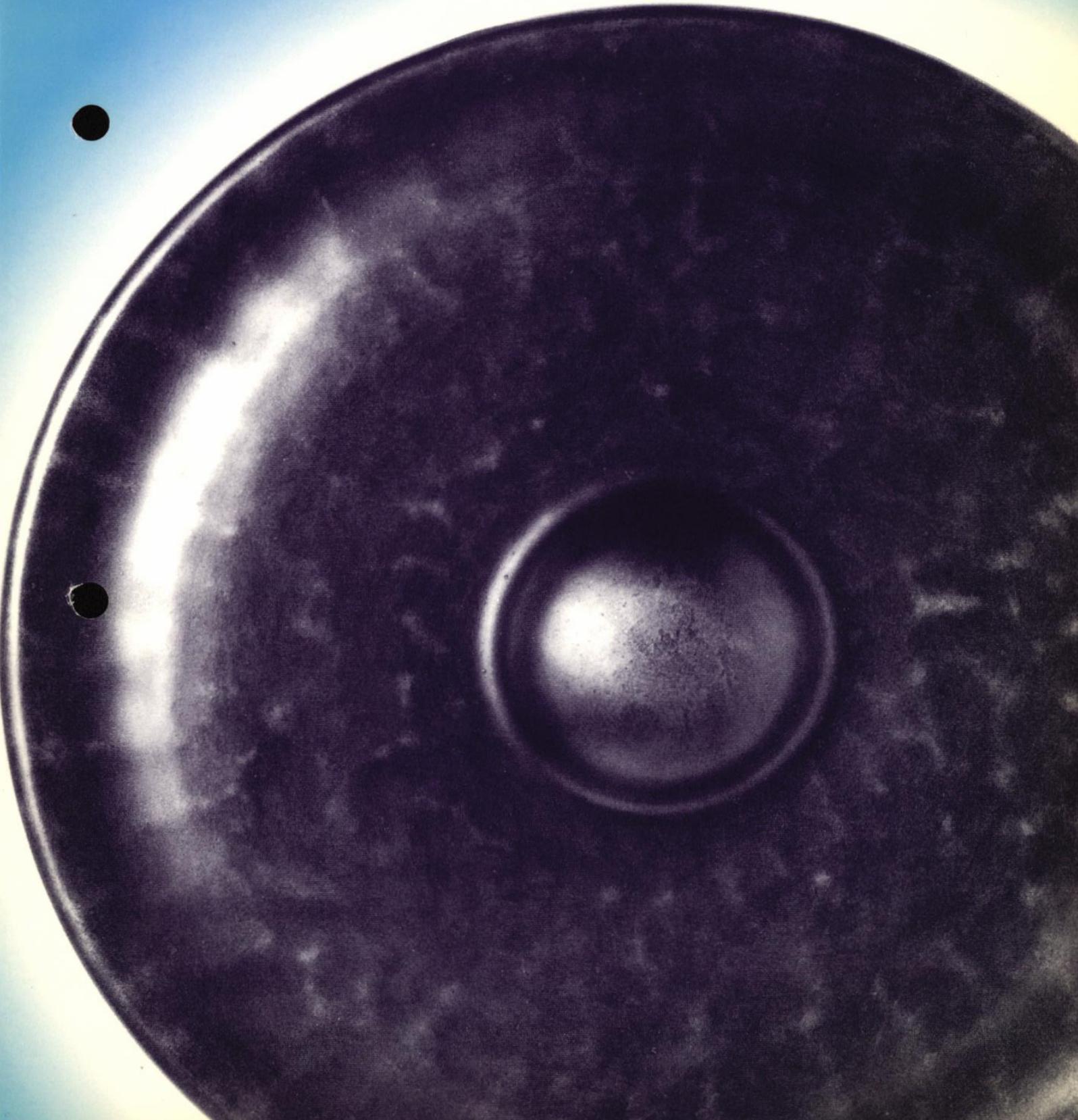


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1994年12月1日 第524号



金澤北ロータリクラブ



小選挙区制と地元政界

石川テレビ放送解説室長 森川英世氏



この1年あまりの間で4人もの総理が入れ替わり、わが国の政局は混迷を極めていく。

とうとう社会党の委員長の村山さんが総理大臣になってしまった。自衛隊も原発も日の丸君が代も180度転換して社会党の政策はどこへいったのか。

国民の見えないところでどんどん政局が変化している。テレビは元来娯楽番組中心だが一方でニュースを通じて世界の情報を送っている。

多局化の中で、地上電波や衛星放送やケーブルテレビも含めると数十局が見られる時代になった。

最近の政局の中で政治改革が叫ばれて以来久しいが、ようやく小選挙区比例代表の区割案が、いま開催中の臨時国会で通過することは確実となっている。

自民党と社会党はこの法案の早期成立を望んではいないが、改革グループは早く成立させ、新しい制度のもとで総選挙をしたいというのが本音のようだ。

小選挙区になれば現在の石川1区が2つに分かれて金沢が新1区、野々市以南が新2区となり、河北郡以北の2区が新3区となる。

石川県内には5人の代議士がいるが、新制度になると選挙区は3つで、各選挙区定数1となるため2人は失業する勘定になる。現在の石川1区の3人の代議士がどうなるかについて有権者の関心が深まっている。

中央では自社さきがけの連立政権が与党となっている。問題は選挙のとき自社協力路線がこの石川県内でも取れるかということである。社会党の石川県本部は新生党や公明・民社と組んで谷本知事を生んだ立場にある。つまり反自民で知事選を戦ってきた。

ところが中央では旧連立政権を離れ、自民党と手を組んでしまった。

社会党の政策転換は中央の図式と石川県内の図式をねじれさせている。

参考までに小選挙区制での石川県の衆院選がどうなるかいくつかのパターンを見ると、去年の衆院選の結果で見ると各候補の得票数は（100票以下は四捨五入）

金 沢……奥田（新生）	77,000	森（自民）	49,000	島崎（社）	36,000
南加賀……奥田	64,000	森	87,000	島崎	40,000

社会党は新1区でも新2区でも単独では勝てない。そこで中央のように自社の選挙協力が出来るとすれば、新1区で社会党に自民党が相乗りすれば、金沢で強い奥田さんもピンチとなる。同じく新2区で自民党の森さんに社会党が協力すれば、森さんの当選は盤石となるのだが、現在の石川県の社会党のスタンスは谷本県政を支えるという立場から自民党と選挙協力することは困難と見られる。政界の一寸先は闇であり不透明な部分が多い。

反対に社会党が新生・公明・民社と組むと新1区の奥田さんは、ただでさえ強いところへ社会党の島崎さんの36,000票を上乗せして圧勝となる。

新2区ではこのようなパターンとなれば奥田票+島崎票をプラスすると104,000票となり、森さんの87,000票を上回ることになる。

今年3月の知事選で見ても、谷本票（連立系）は金沢市で111,000、南加賀で95,000、石川票（自民系）は金沢で68,000、南加賀で93,000であった。

自民党だけでは金沢でも南加賀でも勝てない。

つまり、石川県の政界は社会党がキーパーソンになる。自社協調路線か、県政与党の新生・公明・民社路線を選ぶかで来年の小選挙区での衆院選の結果が出る。

新石川3区（能登）については瓦・坂本の両代議士が話し合い自民党の調整によって候補の一本化が行われそう。

来年は統一地方選挙・参院選・衆院選など選挙の当たり年になる。

第4回箔押・友禪教室を終えて

11月20日、心配された朝方の雷鳴もやみ、子供達が続々とやってきた。9時半森山公民館々長の上田忠信会員、続いて乙村会長の「往時この地域は工芸制作の盛んであったこと。また自らの手で習作することで伝統工芸の興味を持ってもらいたい」との挨拶の後、指導員のオリエンテーションがあり制作がはじまった。豆作家達は創作力を発揮しながら真剣な眼差しで制作に取り組んでいた。また豆作家達にまじり会員多数も幼な心に戻り楽しそうに手を動かしていた。制作をおえ指導員の



作品講評と中谷副会長の閉会の言葉で予定の12時にすべてを終了した。「地域の公民館活動の紹介キャンペーン」で金沢ケーブルテレビ放送㈱の取材もあり地域活動として大いに成果があった。

この教室開催にあたり公民館をはじめ、奥田会員、高岡会員、二塚会員各氏には格別のお世話になりましたこと有難くお礼申し上げます。
(魚住職業奉仕委員長、吉岡社会奉仕委員長)

第12回青少年柔道錬成大会を終えて

午前中の箔押・友禪教室を終え12時半より開催される青少年柔道錬成大会の会場北信越柔整専門学校へ移動。道場は埋めつくさんばかりの青少年の熱気でムンムンの状態。9チーム男子81名、女子18名のエントリーで乙村会長の挨拶で試合開始。専門学校の審判員により手際よく試合は進み、チームメート、指導員や場外窓越しからの父兄達の熱心な応援と歓声で場内は熱気にあふれ少年達のあくなきファイトに不撓不屈の精神と頼しさを感じた。怪我人もなく全試合を終了、成績発表、表彰に続き、石川県柔道協会々長の木島会員の諸評では「女子選手の力が向上した」とのこと、これも「やわらチャン効果」かも知れない。たとえ数時間とはいえ、青少年に接し、語り、声援を送ったことで、彼等を知りこの活動が続けられることの意義の大切さを再認識した。午後の薄日のさす色あざやかな紅葉に充実感をおぼえながら、会員共々道場をあとにした。

最後になりましたが、本大会開催にあたり木島会員をはじめ学校関係者の並々ならぬ御盡力に厚くお礼申し上げます。
(吉岡社会奉仕委員長)

〔成績〕

中学団体の部

優勝 大徳中学校
準優勝 浅野川中学校
第3位 高岡町中学校(A)

小学生4年個人の部

優勝 赤池 哲朗
2位 広村 亮太

小学生5年個人の部

優勝 笹川 泰史
2位 鈴木祥太郎

小学生6年個人の部

優勝 赤池 卓哉
2位 松本 芳央

小学生女子個人の部

優勝 宇野世衣良
2位 額額 智恵

中学生女子個人の部

優勝 川尻 亜希
2位 北 恭子



